

令和6年度たじり懇談会 質疑応答

日 時 4月27日（土）午前10時～12時10分
 場 所 ふれ愛センター
 出席者 町長、副町長
 総務部長、民生部長、住民部長、事業部長、教育部長、企画人権課長、企画人権課
 参事、企画人権課主幹、企画人権課担当
 参加者数 65名

住民からの質問・意見	町長からの回答
「子育て支援について」 町全体できめ細かな施策が必要だと思う。共働きの家庭が増えているので、安心して子どもを預けられる環境を整えて、共働き家庭も住みやすいまちになってほしい。	日本では、働く世代が減っているので、女性も社会進出して、高齢者も働いて労働人口を確保して国を前に進めるのが国の基本的な施策となっている。田尻町では女性の社会進出をサポートするため、伴走型子育て支援制度を実施し、妊娠の届け出時から出産そして子育て期にわたって、保健師が相談にのる体制を整えている。国に先駆けて、3歳児からの無償化を実施している。0～2歳児については、保育士やスペースがたくさん必要になる。現在、保育士は近隣市町で取り合いになっていて、スペース的にも定員ギリギリの状況で、解決はなかなか難しいが、将来的には取り組まないとはいえないと思っている。田尻町なら安心して子育てできると思ってもらえるようにしたい。
「農業について」 去年の町政懇談会では、農業についての説明があったが今年はなかった。農業の担い手が減り、食糧問題は日本全体の問題となっている。役場が価格保証を行い、町内産のお米を買い取り、給食で活用するなど、小さい町だからこそできることもあると考える。	エネルギー・食糧問題は国としても問題となっている。田尻町でも対策の一つとして、令和6年度から給食での地元田尻産米活用支援事業を開始した。先日、出席した農業関係の総会であった話では、後継者不足や高齢化により農業を続けることができないという話や、農地が狭く機械化できないため、高齢化により体力が落ちてくると手作業が大変になるなどの話があった。農業をする企業もあるが、区画が小さいと機械化できないため、参入に結びつかない。現在、農家の方々の意向を確認しているが、自分でやりたい人とやってほしい人の区画が地図におとすとモザイクのようになっていて、区画をまとめて大きくすることができない。農家の方々の理解を得て、前に進めるために話し合いをしている。
「総合文化センターについて」 総合文化センターに係る進捗はどのようになっているのか。	現在の公民館では雨漏りがしたり、また、利用者から音響が古かったり、使う度に椅子を出し入れしないといけなかったりと使い勝手が非常に悪いという声上がり、ワークショップを実施し、駅上で建て替えすることが決まり、議会にも

住民からの質問・意見	町長からの回答
	諮り承認を得ていた。その後、試掘するとガレキが出てきて、また、元々は紡績工場だったため一部有害な薬品が埋まっている箇所がある可能性が出てきたため、土の入れ替えが必要ということになり、その予算として4億円を要求した。それについて、5人の議員に否決され、現在停滞している。防災や教育の専門家に意見を聞くための委員会を開くことを提案し、それに係る予算を要求したが、それも否決された。建設を進めようという想いは変わっていないので、賛成してくれる議員を増やすため、背中を押してほしい。
「町政懇談会について（感想）」 1日目と3日目に参加し、たくさんの住民の皆さんが町政に関心を持っていることを実感した。他の自治体では実施していない中、町長の生の声を聞けるのは重要な場だと思うので、これからも続けてほしい。	貴重なご意見ありがとうございました。
「安否確認訓練について」 安全安心住民協議会のキャッチフレーズは「住民全員がメンバー」となっているが、実際訓練に参加しているのは、地区会に加入している人ばかりで、加入していない人は、ほとんど参加していない。町民全体にPRできているのか。また、オレンジのタオルは全世帯に届いているのか。報告は、地区会に入っている人の参加者数しか報告していなくて、地区会に入っていない人のことは安否確認できていない。町民全体で訓練をしているということを知ってくれたら、より充実した訓練になると思う。	防災は、地区会に入っているかどうか関係なく、みんなで助け合う必要がある。班長さんも地区会に加入している人のことは把握してくれているが、本来なら、班長さんは隣保班の範囲や隣保班全体で何軒あるのかを把握すべきだが、昔からそれができていない。そのため、現在、町では地図上で各隣保班の範囲を示す作業をしている。地区会や班長さんに班全体の認識をもってもらいたい。それには、町だけでは足りず、住民の皆さんの協力も必要がある。無事印タオルは、地区会を通じて配っている。届いていないところがあれば、届けていかないとはいけないと思う。
「地区会について」 安住協や安否確認訓練は「人と人が助け合う、おせっかいがいっぱいなまち」につながると思う。今は、	まちづくりの基本は、住民1人1人が田尻町が好きで、田尻町をより良いまちにしようという郷土愛に満ちた人がいっぱいいることだと思う。 昔は、地元で商売（仕事）をして生活していて、地区会に

住民からの質問・意見	町長からの回答
安否確認訓練もうまくいっていないし、地区会のことについて行政も目を向けてもらい、力を貸してほしい。防災訓練や見守りは田尻町では地区会が中核になるし、しっかりしないと防災の強化はできない。地区会がなくなったら、まちの活性化もない。	入って近所付き合いをしないと住むことはできなかったが、今は、日中は大阪市内や関空など別の場所で働き、夜に田尻町へ帰ってきて寝るだけという生活の人が増えて、「地域社会の人間」というよりも「会社の人間」という認識の人が多くなっていると思う。それにより、田尻町への愛着が薄くなってきていると思う。子どもたちに田尻町を好きになってもらい、愛着をもつ子になるように、学校の先生にもお願いしている。また、田尻町への郷土愛を育むために給食で田尻産米を提供したり、奨学金を出したりしている。
「ベイガルズのお風呂について」 ベイガルズのお風呂は、利用者がだんだん減ってきている。ふれ愛センターより遠いし、コミュニティバスは停まるが、時間が合わない。しかし、コミュニケーションの場でもあり、1人暮らしにとってお風呂は大切である。	ふれ愛センターのお風呂を改修しないといけない時が来た際、修繕には膨大なお金がかかるため行わず、その代わりにベイガルズのお風呂を利用させてもらえることになった。色んなサークルがあって、特定のサークルだけを特別扱いすることはできない。色んな仲間があると思うので、誘い合わせてみんなで色んなサークルや健康イベントに参加してほしい。
「防災について」 総合文化センターは防災設備の拠点を置くことになると思うが、議会で否決されていて、このままいくと総合文化センターは実現できないということなのか？実現できないままでは田尻町の防災は脆弱になるので、早期に解決すべきことで、これを解決する手段として住民投票も考えるべきだと思う。	住民の命・財産を守ることは、我々に大きな責務がある。今はふれ愛センターと小学校等が避難所となっていて、計算上では約1600人を収容できる想定となっているが、もっと充実させる必要があると思うし、避難施設にも空調設備の整備なども必要だと考えている。総合文化センターは、平常時はホールや図書館として利用してもらい、災害時には避難所として機能する施設を建てようとしている。集会所もかなり老朽化しているため時期がくれば防災機能を兼ね備えた建物に順番に建替えし、町内の色んなところに避難所があるまちにしようとしている。最終手段としては住民投票もあるがそれを行うには大きな費用や手間がかかるので、議員と議論を積み重ねて理解を得たいと考えている。防災に強いまちづくりをするために1歩1歩進めていこうという計画をもっていることを理解してもらいたい。
「町へのお願い」 現在、議会では、反対意見を言わずに反対だけをしていて、反対のための反対になっている。反対へは反対の意見を言って、正常に戻し、前に進めてほしい。地震や津波が1番	色んな想定をしてまちづくりをしないといけないと考えている。何かあった際には、人と人とのつながり、人と人が助け合う、ソフトが最後には大切になってくる。皆さんとともに、災害に強いまちづくりをしたい。

住民からの質問・意見	町長からの回答
怖い。今、海に近い低い方へ避難させるようになっている。若い人達のためにも良いものを建ててほしい。消滅しない、持続可能なまちにしてほしい。	
「総合文化センターについて」 私は、平日フルタイムで働く現役世代で、総合文化センターができれば、気軽に大人も勉強したり、集まったりする場ができ、生涯学習活動ができることと期待している。	狭い町域の中で、図書館や人口規模に応じた大きさのホールや人が集える場を複合的に整備し、生涯学習活動もできる建物としたい。将来を担う子どもたちだけではなく、大人も一緒に勉強して過ごし、郷土愛をはぐくめる場にしたい。